

令和5年度全国学力・学習状況調査 三郷市の調査結果分析と今後の方策例

主な成果 (○) と課題 (▲) 全国差：全国平均正答率との差

中 学 校 英 語

全体の結果（正答数分布グラフ等からの分析）

- 「話すこと」を除く平均正答率は43.0%であり、これは全国差－2.6ポイントである。
- 「話すこと」を除く平均正答数は、7.3問/17問であり、全国を下回る。  
※全国7.7問/17問
- 「話すこと」平均正答率は12.0%であり、これは全国差－0.4ポイントである。

学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式別結果

- 学習指導要領の領域「読むこと」では、全国差－0.4ポイントである。
- 学習指導要領の領域「話すこと [やり取り]」では、全国差－1.1ポイントである。
- 評価の観点「知識・技能」では、全国差－2.4ポイントである。
- 問題形式「記述式」では、全国差－2.1ポイントである。

問題別結果（正答率、無回答率からの分析）

- 5**－（2）「事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する」では、全国差＋4.0ポイントである。
- 「話すこと」**1**－（1）「日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」では、全国差＋4.6ポイントである。
- ▲**8**－（1）「社会的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる」では、全国差－6.1ポイントである
- ▲市の平均無回答率は5.8%であり、全国の平均無回答率5.7%を上回る。

今後の方策例（※8－（1）を例に）

「社会的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる」

令和5年度 全国学力・学習状況調査報告書（国立教育政策研究所）より

意見文を読んで、要点を捉えることができるようにする

意見文を読んで、要点を捉えるためには、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えることが重要である。

指導に当たっては、以下のような言語活動に取り組むことが考えられる。

- ・ 地球温暖化などの環境問題に関する説明文や意見文を読み、イラストや写真、図表なども参考にしながら、筆者の主張を数文でまとめる活動
- ・ 地球温暖化などの環境問題に関する説明文や意見文を読んで筆者の主張を捉えた後に、自分ができることなどについてペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったり、さらにそれを簡潔に書いて表現したりする活動

言語活動を行うに当たっては、繰り返し用いられている語句や同じ内容を言い換えている表現、文章中の問いかけなどを手掛かりにして最も大切な語句や文を選んだり、段落内の文章の構成を把握したりすることが大切である。例えば、本設問であれば、As I explained という表現に着目し、後に位置する情報が筆者の最も伝えたい内容であると捉えることが考えられる。

なお、平成31年度（令和元年度）【中学校】英語**7**のように、複数の段落からなる文章を読んで、要点を捉えることも大切である。その際には、段落相互の関係を捉える指導などが考えられる。

